



市長メッセージ

悲観しすぎず、楽観もしすぎず、「正しく恐れる」ことが重要です！

市民の皆さんにお会いする場やこの市長メッセージで、私が今一番気になっていることやお願いしたいことをお伝えしています。

今年3月31日、政府の中央防災会議の有識者で構成された作業部会が、南海トラフ地震の新たな被害想定をまとめた報告書を公表しました。最大死者が約29万8千人と、前回（平成24年）の32万3千人から10年経ちましたが、わずか8%しか減らせていないという結果となり、衝撃を受けた方、驚いた方も多く、特に自治体では、努力してきたのに効果が表れていないと落胆の声も上がっているところもあるようです。

しかし、報告書では、予測される被害は甚大ですが、浸水想定地域の住民全員が地震発生後、早期に避難を開始すれば津波による死者数は21万5千人から7万3千人と、7割近く減らせるとなっています。さらに、耐震化率も100%であれば、揺れによる全壊棟数は35万9千棟と、こちらも7割減少するとなっています。

つまり、意識一つで被害を大幅に減らすことができるとい

うことです。和歌山県は、対策も進み最大死者数が6万5千人と多いですが、当初想定より1万5千人減と全国最大の減少幅となっています。

作業部会の名古屋大の福和伸夫名誉教授も「南海トラフ地震は、国民の約半数が被災する国難だ。今回の想定は、国民一人ひとりが「自らの問題だ」と考えるチャンスにもなるだろう。」と話しています。

また、高知県の濱田知事も「最大クラスの地震が発生した場合、発生直後は、消防や警察、自衛隊を総動員してもすぐには救助が全体に行き届かない。行政組織も職員自身が被災者となるうえ、平時とは桁違いの作業が発生し、手が回らない。被害を減らすには、一人ひとりが耐震化や家具の固定、食料や水の備蓄、避難経路の確認などの準備をすることが最も重要なポイントだ。あらゆる機会を通じて広く説明をしていきたい。」とマスコミの取材に答えられています。

私も同じ思いであり、市長就任から5年、このことに取り組んできたところです。

今回の報告書の公表を受けて、ただ驚くのではなく、この数字の意味を正しく理解したうえで、悲観しすぎず、楽観もしすぎず、「正しく恐れる」ことが重要です。そして今一度、一人ひとり命の大切さを改めて考えていただき、できること、やらなくてはいけないこと、そして備えの再確認をどうかお願いいたします。

御坊市長 みうら げんご 三浦 源吾

広告

自宅介護でお困りごとはございませんか？

お気軽にご相談ください。 ☎ 0738-52-5217

社会医療法人 黎明会 ケアプランきたで・和佐の里

営業時間 8:30~17:30 (月曜日~土曜日) ※日曜日・12月31日~1月3日は休業



あなたの時間を有効活用！ ちょこっとシルバーしませんか。

60歳以上のお仕事したい方に！

御坊市在住、60歳以上の方で健康で働く意欲のある方に！

◆ 平均年齢 73.8歳 ◆

※お仕事内容はセンターによって異なります
※定期入会説明会 毎月1日/15日 午後1時30分~ 御坊市シルバー人材センター(休日の場合は翌日)事前に予約連絡を



事業主の皆様・ご家庭の皆様
さまざまなお仕事お引き受けしています。
お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先
御坊市シルバー人材センター
電話090-8655-7556
御坊市園76番地(御坊市立体育館内)

厚生労働省委託事業 高齢者活躍人材確保育成事業 公益社団法人 和歌山県シルバー人材センター連合会

紀州新聞は購読料

(1カ月) 税込 **2,000円**
※郵送の場合は別途

紀州新聞社
御坊市島172 ☎0738(22)2536(代)

御坊市公式LINE友だち募集中!!

御坊市では、市民の皆様方に市政情報を迅速にお届けするため、LINEを活用した情報発信に取り組んでいます。

次の二次元コードから読み込み、友だち登録をお願いします。

